

【参考資料】 デザインアイデアコンペ実施にあたっての確認事項

(1) 応募対象と優秀賞の設定について

- ・「誰でも」という視点を反映しながら、評価コメントをもとに賞を設定する。(夢いっぱい賞など>賞名に大切なコンセプトを賞の名称に設定)それ以外にも、下記のような選択肢も考えられる。
- ・賞の設定と賞金のバランスをどのように設定するか。総額で提示するか。総額 50 万円程度は可能。
- ・次年度のプロポーザルに向けて、専門家と一般市民の入賞のバランスをとる必要がある。

参考：部門と評価の設定

部門（応募の入口）	評価のパターン
だれでも (※) 部門はナシ	「一律」に評価して賞を決める 例) 大賞、2位、3位・・・ 例) 市長賞、委員長賞、努力賞・・・
①大人部門（高校生以上） ②子供部門（中学生以下）	「年齢区分」で評価して賞を決める ①大人向け賞（高校生以上） ②子供向け賞（中学生以下）
①一般部門 ②プロ部門	「専門性」で評価して賞を決める ①一般市民向け賞 ②プロ向け賞（建築・ランスケ関係者）
①チャレンジ部門（賞を狙う人向け） ②展示部門（展示してほしい人向け）	※部門①について、上記のいずれかの方法で評価する

(2) 評価のプロセスについて

- ・優秀賞は複数案（最低 5 件）を前提とする。
- ・評価は定性的なものを想定している。
- ・応募作品を展示して、シール投票や付箋でコメントを書き添えていただき、市民意見の傾向についても評価・公開する。

評価プロセスの進め方案

- ①応募書類を事務局がナンバリングした上で、各委員に送付する。
- ②国立市役所等で作品を展示し、市民の反応を把握する。
※作品数により対応が異なるので、掲示場所、期間は締め切り後に告知する。
旧国立駅舎や駅前市民プラザなど人が自然と集まる場所を想定。
- ③市民意見を各委員に送付する。
- ④評価基準や市民の反応を踏まえて、各評価委員が 5 案を推薦する。
- ⑤第 2 回評価委員会で委員より推薦した 5 案のプレゼンを行う。
- ⑥全委員の投票により上位作品を入賞作品とする。
- ⑦入賞作品の各案の評価ポイントと賞の名称を確認する。(シンポジウムや広報で活用を想定)

※旧国立駅舎東西広場・円形公園デザインアイデアコンペ評価委員会の意見をもとに、事務局で提案を取りまとめ、最終的に市長が優秀作品について決定を行います。

(3) 評価基準の設定と事前明示について

- ・評価基準を明確に設定する場合、評価の視点として、魅力的な空間であるか、次年度のプロポーザルにつながるか、前提条件となる整備基本方針を踏まえているかが重要となる。

評価の視点案

- ・ワクワクするような楽しさや生活の豊かさが感じられるか
- ・使いやすい歩行者空間であるかなど人中心の広場として新たな価値創造が期待できるか
- ・広場に関するアイデアとして設計内容に反映できる視点が含まれているか
- ・整備基本方針で示された考え方が反映されているか

参考：来年度実施予定のプロポーザルでの予見

- ・旧国立駅舎東西広場・円形公園については道路法上歩道として位置づけられるため、建物等建築物の設置はできない。(雨除けシェルターの設置は建築審査会の同意により可)
- ・ロータリー内の交通導線について事前に立川警察との協議を進めており、ロータリーの形状、円形公園の大きさ等は変えられない。
- ・旧国立駅舎東西広場にはトイレを設置する予定となっている。
- ・令和5年度のプロポーザルについては、東西広場・円形公園・国立南口駅前広場について合わせて基本設計プロポーザルを実施する予定である。
そのため、歩道のインターロッキング、ロータリー内の舗装などは全体の計画に合わせて今後調整が可能である。